

## 卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和4年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	長岡技術科学大学	整 理 番 号	1808
プログラム名称	グローバル超実践ルートテクノロジープログラム		
プログラム責任者	和田 安弘	プログラムコーディネーター	梅田 実
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目の現地視察、中間評価およびプログラムオフィサーの指摘に真摯かつ迅速に対応し、改善の仕組みが上手く回っていることで、本プログラムが順調に進捗しているとともに、採択時に比べプログラム自体が大きく進化している。</li> <li>・コロナ禍により、海外リサーチインターンシップへの派遣については大きな影響を受けているものの、オンラインおよび国内インターンシップに代替することにより、反復学習、グローバル超実践教育等の特徴あるプログラムが着実に行われている。</li> <li>・学生のプログラムに対する満足度も高く、卓越大学院の主旨を理解している。高等専門学校出身者が学生の多くを占めるなかで、専門分野のみならず幅広い視野や豊かな人間性を獲得しようという意欲が感じられる。その点については、2年目に導入した俯瞰的・創造的な力を養うための新設科目群が着実に効果を上げていると考えられる。</li> <li>・連携企業との共同研究や寄付制度についても、常に見直しをしつつ進化しており、外部資金の獲得についても着実に効果を上げている。</li> <li>・課題であった多様な学生の確保については、技術科学イノベーション専攻の学生に限定してきたシステムを改変し、全修士専攻の学生が本プログラムを履修できる制度を導入するとともに、3年次編入を実施して社会人学生を獲得した。これらにより、令和4年度の新入学生の定員は充足している。</li> </ul> <p>【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プログラムを全学的に展開・波及させるという観点から、令和4年度の改組によって、学部一修士プログラムのSDGsエンジニアコースを設立するとともに、大学院には修士一博士プログラムのGIGAKUイノベーションプログラム、社会人向け修士一博士プログラムのSDGsプロフェッショナルコースを設立している。さらに、本プログラムの教育手法や講義を学部向けに再構成した技術革新フロンティアコースを設立し、STEAM人材育成を目指す取り組みに着手しており、全学的な改革が着実に行われている。</li> </ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改善を要する点とまでは言えないが、新たな取り組みによって獲得した技術科学イノベーション専攻以外の専攻の学生について、サポート体制が十分ではないように思えることから、新たに学生間での交流機会や刺激しあう場を設ける等の取り組みを検討されたい。</li> <li>・本プログラムに関わる教員間の経験の多寡によって、学生のサポートに若干の差があることが考えられることから、教員間においてさらなる指導方法やナレッジの共有を検討されたい。</li> <li>・多様な学生の確保については、社会人・他専攻の学生の獲得に加え、進学説明会等を強化する等の取り組みによって成果は出ているものの、女子学生の獲得については、</li> </ul>			

依然として低調であることから、さらなる取り組みの工夫を検討されたい。

- 本プログラムは着実に行われているが、将来に向けて、ルートテクノロジーの世界的拠点としてのさらなるブランディングや、地域から世界へと発信していくための取り組みを検討されたい。
- 本プログラムの特徴である「グローバル超実践教育」の実現に向け、コロナ禍の影響を見ながらではあるものの、学生からの期待が極めて高いことから、海外リサーチインターンシップ等の海外派遣について、早期の実現を検討されたい。